

茅ヶ崎市の郵便差出箱について

須藤 格^(*)

はじめに

社会、経済の変化が街並みを大きく、そして急速に変えていく中、寺社や石造物などのほかに、まちの面影や歴史を現在に物語ってくれるものは数少なくない。そのような中、かつてのくらしの営みを伝えてくれるものの一つが公共設置物である、郵便差出箱（通称「郵便ポスト」）であると考えます。

本稿では、茅ヶ崎市において現在確認できる郵便差出箱を可能な限り踏査・記録し、当市における郵便事業の変遷と近代におけるまちの変化について調査した結果を報告する。

郵便事業と郵便差出箱について

郵便とは、はがきや封書などの郵便物や、これを送達する仕組みのことである。日本の郵便制度は、「日本郵便の父」と呼ばれる前島密（1835-1919）により明治4（1871）年4月20日に導入され、東京～大阪間で始まる。明治5（1872）年には全国展開が図られた。事業が開始した年は、郵便役所が3カ所、郵便取扱所は62カ所設けられた。また、同時に郵便切手の発行も開始された。事業開始にあたっては、当時のイギリスの郵便制度を参考としている。郵便はがきの発行が開始されたのは、明治6（1873）年で、この年から郵便料金の全国均一制が実施されている。明治8（1875）年に郵便役所・郵便取扱所を郵便局と改称、明治20年に逓信省のマークとして「〒」を制定している。

日本で郵便制度が始まった明治4（1871）年に、日本で最初のポストが設置された。脚付の台に四角い箱をのせた木製ポストは、書状（手紙）を集める箱であることから「書状集め箱」と呼ばれ、郵便の開業を知らせる「太政官布告」、郵便の利用方法を知らせる「書状を出す人の心得」、あて地別の郵便料金と届くまでの時間を知らせる「各地時間賃銭表」が付けられていた。

書状集め箱は、東京に12カ所、京都に5カ所、大阪に8カ所、そして3都市を結ぶ東海道の宿場62カ所に設置された。

以後、明治5（1872）年になると郵便が全国に実施されたため、郵便局（当時は郵便取扱所）の数も増え、それにあわせてたくさんのポストが必要になった。事業の拡大に伴い、杉板を四角い柱のように組み合わせ、かどに鉄板を張って黒いペンキを塗った「黒塗柱箱」（黒ポスト）が作られ、その後、明治34（1901）年に火に強い鉄製の赤色丸型ポストが考案され、現代の郵便差出箱に通じる「赤くて丸い」ポストが設置された。これは、「中村式郵便差出箱」（直径36cm、高さ145cm、根石の高さ24cm）と呼ばれている。この時、ポストを赤色に塗ったのはポストの位置をわかりやすくするためであり、かどを丸くして通行の邪魔にならないよう工夫が施されたためである。

昭和12（1937）年に日中戦争が始まり、戦時体制下に入ると、物資対策のため、鉄製の郵便ポストのかわりにコンクリートや陶器など、代用の資材を用いたポストが出現したが、昭和20（1945）年に終戦をむかえ、再び鉄製ポストが使用された。

昭和24（1949）年の郵便差出箱1号（丸型）を最後に丸い形のポストは終わり、それ以降は大量の郵便物の差し出しや取り集め作業の効率化に対応し、角型のものが設置されるようになった。

郵便差出箱の種類については表1に示す。

表 1 郵便差出箱一覧（記念ポストは除く）

名称	特長	設置年	寸法		素材・色
			本体	根石・脚柱	
書状集箱	日本初の郵便差出箱	明治4(1871)年	※	※	木製・黒
黒ポスト	郵便が開業してからの順調な発展に伴い、明治5(1872)年3月に東京府内往復郵便が開始された。また、この時に角柱型の新しいポストも設置された。	明治5(1872)年	幅24.2cm 奥行24.2cm 高さ123cm	不明	木製・黒
俵谷式ポスト	明治期の発明家俵谷高七氏が考案したポストです。赤色鉄製の円筒形で、現状のポストの原形に近い特徴を備えている。このポストは、明治34年(1901)に試験的に設置された。	明治34(1901)年 ※試験設置	※	※	赤色
中村式ポスト	中村幸治氏の考案によるもの。明治34(1901)年に試験的に設置されました。赤色鉄製の円筒形で、差入口に雨蓋がついている。	明治34(1901)年 ※試験設置	直径36cm 高さ145cm	高さ24cm	鉄製・赤色
回転式ポスト	明治41(1908)年10月に正式に鉄製赤色のポストが制定されました。差入口が回転式となっている。	明治41(1908)年	【並形】 直径36cm 高さ136cm	高さ24cm	鉄製・赤色
丸形底付ポスト	明治41年の回転式ポストは、故障が多いこと、手紙の投入に不便なこと等から明治45(1912)年に回転板を取りはずし、雨よけの底を付けたものに替えられた。この形のポストは長く使われた。	明治45(1912)年	高さ132cm	高さ24cm	鉄製・赤色
航空郵便専用ポスト	昭和4年4月1日、航空郵便制度が施行された。それに伴い、航空郵便専用のポストが東京、大阪、福岡に設置された。	昭和4(1929)年	高さ137cm	不明	青色
コンクリート製ポスト	戦時体制下における物資不足対策のため、コンクリートを用いた代用ポスト。	戦時中	不明	不明	赤色 黒色など
郵便差出箱1号(丸型)	昭和20(1945)年に終戦を迎え、物流の回復とともに、昭和24(1949)年から新しい鉄製ポストとして実用化された。	昭和24(1949)年～	高さ135cm 直径40cm	高さ20cm 直径60cm	鉄製・赤色
郵便差出箱1号(角型)	1号(丸型)の後継ポストとして、郵便物が100通以上投函されるような地域に設置された。	昭和45(1970)年～	高さ80cm 幅37cm 奥行51cm	【脚柱】 高さ59cm 直径17cm	鉄製・赤色
郵便差出箱3号	内部に口金付収集容器を収容できるようにし、収集袋を使用した最初の差出箱。	昭和26(1951)年～	高さ106cm 幅48cm 奥行54cm	【脚柱】 高さ33cm 直径22cm	鉄製・赤色
郵便差出箱4号(速達専用)	速達郵便物の利用増加や郵便物の大型化に伴い、収容能力の大きいこのポストが設置された。	昭和35(1960)年～	高さ80cm 幅37cm 奥行51cm	【脚柱】 高さ59cm 直径17cm	鉄製・赤色
郵便差出箱特4号(速達専用)	速達郵便物の利用増加や郵便物の大型化に伴い、従来の郵便差出箱4号では入りきれない事もあった。そのため、昭和40年から大型のポストが設置されるようになった。	昭和40(1965)年～	高さ106cm 幅48cm 奥行54cm	【脚柱】 高さ33cm 直径22cm	鉄製・赤色
郵便差出箱6号	郵便物数の増加に伴い、外務員が一度に持てないとき、あらかじめ配達する郵便物の一部を保管しておく保管箱と一体になった兼用のポストが昭和34年(1959)から使用された。	昭和34(1959)年～	高さ133cm 幅53cm 奥行53cm	なし	鉄製・赤色
郵便差出箱7号	郵便物の区分作業の効率化と速達速度の向上のために差入口を2カ所設けて、宛先別に郵便物を投入するポストを昭和36年(1961)に試用し、翌年に実用化され、その後幾多の改良が重ねられているもの。	昭和37(1962)年～	高さ106cm 幅65cm 奥行54cm	【脚柱】 高さ33cm 直径27cm	鉄製・赤色
郵便差出箱8号	内部に方面別に色わけした収集袋を設置し、収集めの際は、袋ごと集めるようになった。	昭和41(1966)年～	高さ80cm 幅60cm 奥行45cm	【脚柱】 高さ59cm 直径22cm	鉄製・赤色
郵便差出箱9号	掛箱を直接取り付けができない場所にも設置できるように作られた差出箱。脚柱の取り外しができる構造となっている。	昭和49(1974)年～	高さ54cm 幅33cm 奥行約27cm	【脚柱】 高さ82cm 直径11cm	鉄製・赤色
郵便差出箱10号	－	平成8(1996)年～	高さ約83cm 幅約45cm 奥行約56cm	【脚柱】 高さ約55cm 直径約17cm	鉄製・赤色
郵便差出箱11号	－	平成8(1996)年～	高さ約114cm 幅約46cm 奥行約56cm	【脚柱】 高さ約24cm 直径約27cm	鉄製・赤色
郵便差出箱12号	－	平成8(1996)年～	高さ約114cm 幅約81cm 奥行約56cm	【脚柱】 高さ約24cm	鉄製・赤色
郵便差出箱13号	差入口が大口タイプに替わり、エクスパックなどの大型の郵便物も楽に投函できるようになった。	平成15(2003)年～	高さ約83cm 幅約81cm 奥行約56cm	【脚柱】 高さ約55cm	鉄製・赤色
郵便差出箱14号	－	平成15(2003)年～	高さ約52cm 幅約35cm 奥行約40cm	【脚柱】 高さ約81cm 直径約11cm	鉄製・赤色
ローボスくん(通称)	平成15(2003)年以降、コンビニエンスストアに設置されたポスト。	平成15(2003)年～	高さ約70cm 幅約30cm 奥行約12.5cm	なし	鉄製・赤色

(参考)「逓信総合博物館展示資料」より

※記録なし、もしくは計測不可のため

図 1 市内郵便差出箱の例

郵便差出箱一号（丸型）：共恵 	郵便差出箱十号：香川 
郵便差出箱三号：浜見平 	郵便差出箱十三号：茅ヶ崎市役所前 
郵便差出箱九号（角型）：小出 	郵便差出箱十四号：下寺尾 

茅ヶ崎の郵便事業のはじまり

郵便局は、郵便物の集配・受領・配送等の郵政事業、荷物等の受領・配送等の運送事業を主に行う機関である。逓信省、郵政省、総務省郵政事業庁、日本郵政公社と続いた国の機関であり、平成 19（2007）年 10 月 1 日の郵政民営化以降は郵便局株式会社の事業所である。平成 22(2010)年 1 月 5 日現在、茅ヶ崎市内には 11 の郵便局がある。

当市域最初の郵便局は、明治 8(1875)年 1 月、茶屋町に三等郵便局の郵便取扱所として設置されている。三等郵便局とは、郵便事業が始められた当初、円滑に事業の全国展開を図るため、明治政府が民間資産の活用を検討し、地域の元名主や地域住民の有志から「給料不要」「局舎提供」を条件に、郵便取扱所を開局させ、事業の促進を図ったものである。茶屋町付近の南湖立場が東海道の宿場的な存在であったため、当該地の御小休本陣・松屋が取扱人となった。その後、三等郵便局という名称は、官設の一等、二等局の下に置かれていると誤解されることから、昭和 16(1941)年、従来の一等、二等局、特定三等局を普通郵便局、三等局を特定郵便局と名称変更された。

茶屋町の郵便局は、鉄道と茅ヶ崎駅の開設に伴い、露店などの市が駅北口周辺に移ったことや、別荘や南湖院などによる新規の需要が海岸方面であったことから衰退していったと推察される。その後、新栄町 8-4 付近に茅ヶ崎郵便局が開局された（図 2）。昭和 26(1951)年に、現在の新栄町 13-20 に移転した。現在の局舎は、昭和 41(1966)年 11 月に当初の局舎を改修したものである。

茅ヶ崎の郵便差出箱

通称「郵便ポスト」は、郵便法により「郵便差出箱」とされ、日本郵政公社の平成 18 年度の統計によると、全国に 192,000 の郵便差出箱が設置されている。また、郵政事業庁から日本郵政公社に変更になって以降、設置個所の大幅な拡大が行われ、コンビニエンスストアと提携してのストア内郵便差出箱の設置が行われている。神奈川県内においては、約 6,900 地点に設置され、茅ヶ崎市



図 2 昭和 13(1938)年の茅ヶ崎郵便局と少年

差出箱型式	基数
一号（丸型）	10
一号（角型）	8
三号	4
九号	11
十号	96
十三号	3
十四号	8
コンビニエンスストア	24
合計	164

※平成 21 年 12 月現在

表 2 市内郵便差出箱一覧

内においては平成 21(2009)年 12 月現在、164 の地点に設置されている。市内に設置されている、郵便差出箱の内訳を表 2 に示す。

この中で、注目したいのは昭和 24(1959)年以降設置された一号（丸型）：10 基と、昭和 26(1951)年以降設置された三号：4 基である。戦後及びその復興期に設置されたものであり、昭和 30(1955)年以降、急速に都市化が進む前の茅ヶ崎における

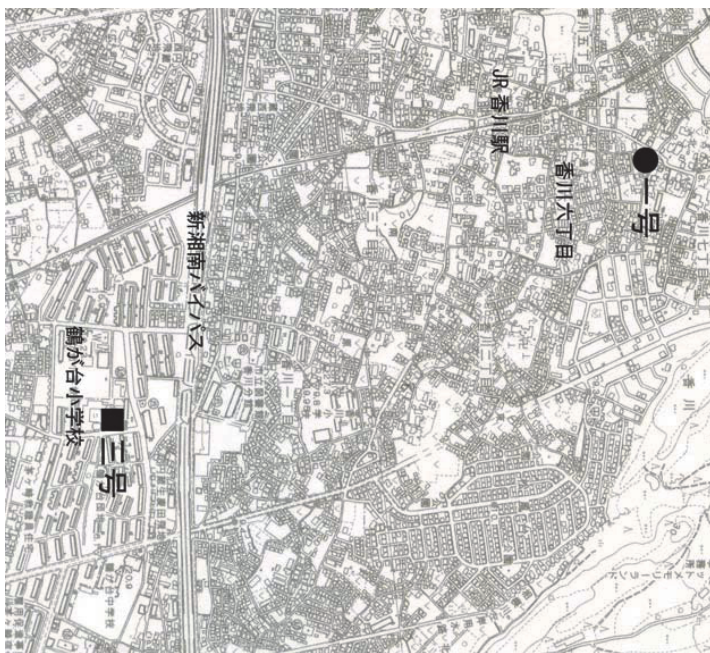


図 3 郵便差出箱一号・三号位置図

差出箱 一号 (丸型)	南湖 3-4-35
	南湖 6-1-1
	南湖 2-9-22
	共恵 1-11-4
	東海岸北 2-8-1
	旭が丘 7-64
	中島 314
	十間坂 3-9-1
	新栄町 5-4
差出箱 三号	香川 6-26-22
	浜見平 10-1-15
	浜見平 17-2
	下町屋 1-1
	鶴が台 10-5

表 3 郵便差出箱一号及び三号設置場所一覧

人々の往来する場所、中心的な地域がどこであったかを知ることができる。郵便差出箱一号（丸型）と三号の位置を図3と表3に示す。

郵便差出箱一号については、戦後に東海道線以南を中心とした集配が行われていたことが、また三号については鶴が台・浜見平の両団地の造成に伴い設置されたことがわかる。

郵便差出箱の製造年型ごとの設置数と、市の人口動態を比較したグラフを図4に示す。左軸を設置数、右軸を人口とした。

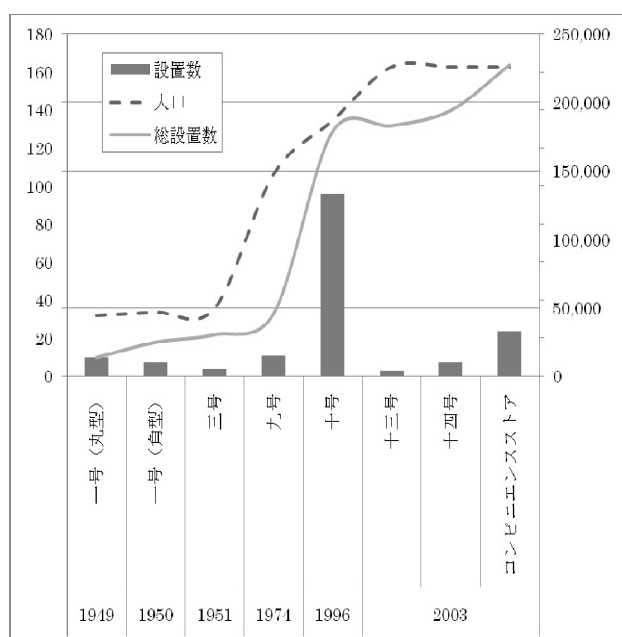


図4 郵便差出箱数と人口動態

この図から、戦後の高度経済成長期における市の人口増加に伴い、その設置数を増やし郵便事業の充実化を図っていることが確認できる。また、近年においては、よりきめ細やかな郵便サービスの提供を図り、コンビニエンスストアとの提携による新たな個所への設置を推進していることが分かる。

さいごに

急速に変化する社会・地域の中で、何気なく接しているもののの中に、かつての人々の営みを伝えてくれるものの一つが、設置場所が容易に変化しない郵便差出箱ではないかと考える。

郵便差出箱は、多くの人々の思いや物事の発信

点となっただけでなく、戦後の街並みや風景を、現在に伝えてくれる貴重なまちの文化的資料の一つであると考え。

本報告には調査漏れがあると思うがご容赦願いたい。その点に関しては、ご教示いただきたい。また、郵便差出箱は常に改良が施されており、その分類は製造者や細かな仕様の違いで細分化することが可能であるが、本稿では逓信総合博物館の分類を採用させていただいた。

最後に、本稿作成にあたりご多忙の中、ご協力いただいた茅ヶ崎郵便局集配課、逓信総合博物館の職員の方々、写真を提供していただいたフジヤ洋品店の木村氏に深く感謝いたします。

* 茅ヶ崎市教育委員会生涯学習課文化財保護担当
茅ヶ崎市文化資料館

【参考文献・資料】

- 「茅ヶ崎市史2 資料編(下) 近現代」茅ヶ崎市, 1978
- 「茅ヶ崎市史4 通史編」茅ヶ崎市, 1981
- 「茅ヶ崎市史5 概説編」茅ヶ崎市, 1982
- 「神奈川県史料」第5巻神奈川県立図書館, 1969
- 前島 密「前島密—前島密自叙伝」日本図書センター, 1997
- 藪内 吉彦「日本郵便発達史」明石書店, 2000
- 丹下甲一「郵便史」日本郵趣出版, 2007
- 小林 正義「みんなの郵便文化史」にじゅうに, 2002